

展示室1 ターナー生誕250年

1775年4月23日に生まれたターナー(1775 - 1851)は、イギリス美術史上、もっとも偉大で影響力のある画家のひとりです。イギリスでは今日、20ポンド紙幣に描かれた国民的画家として親しまれています。

日本においても、明治時代からターナーの名前は知られていました。たとえば、夏目漱石『坊っちゃん』(1906年、明治39年)では「あの松を見たまえ、幹がまっすぐで、上が傘のように開いてターナーの画にありそうだね」とあります。

油彩画・水彩画・版画をととして世界を捉えた彼の作品は、自然美、そして画趣(ピクチャレスク)と崇高(サブライム)、生の儚さ(希望の虚偽)や倫理を描いた「描かれた詩」として、感銘を与え続けています。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ワイ川		エッチング、メゾチント・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ノラム城		エッチング、メゾチント・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ティンタージェル城、コーンウォール	1818	エッチング、ライン・エングレーヴィング・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ティーズ川の流れ、ヨークシャー		ライン・エングレーヴィング・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ランペリス湖、北ウェールズ	1834	エッチング、ライン・エングレーヴィング・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	タイン川沿いのニューカースル	1826	メゾチント・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ブルーアム城	1825	メゾチント・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	プリマス海峡の入口のミュール・ストーン、デヴォンシャー	1816	エッチング、ライン・エングレーヴィング・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ファルマス港、コーンウォール	1816	エッチング、ライン・エングレーヴィング・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	エディスタン灯台	1824	メゾチント・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ボスカースル、コーンウォール	1825	エッチング、ライン・エングレーヴィング・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	フォークストン、ケント	1826	メゾチント・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	スカーバラ	1826	メゾチント・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ウィットビー	1826	メゾチント・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	カレー沖の釣船(ドーバー海峡)	1830	メゾチント・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ヘルゴラントの死の舟	1837	ライン・エングレーヴィング・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	バトル修道院	1816	エッチング、ライン・エングレーヴィング・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ノアの大洪水	1828	メゾチント・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ボッカチオの庭(鳥かご)	1830	メゾチント・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	夏の夕べー虹	1837	ライン・エングレーヴィング・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	兵士の夢	1837	ライン・エングレーヴィング・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ワイオミングのガートルード一谷	1837	ライン・エングレーヴィング・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ワイオミングのガートルード一滝	1837	ライン・エングレーヴィング・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	アーヴロン川の水源		エッチング、メゾチント・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	グラン・シャトルーズ近くの水車小屋	1816	エッチング、メゾチント・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ネッカー川対岸から見たハイデルベルク	1846	エッチング、ライン・エングレーヴィング・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	カンパーランド州のコールダー・ブリッジ	1810	油彩・キャンバス・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	サン・ゴタル峠の下り道	1848	水彩・紙
ジョン・コンスタブル	デダムの谷	1802	油彩・紙、キャンバス
サー・ジョシュア・レイノルズ	エグリントン伯爵夫人、ジェーンの肖像	1777	油彩・キャンバス・紙
サー・エドワード・コーリー・パーソンズ	フローラ	1868～84	油彩・キャンバス・紙

展示室2 エキゾチック・ヴィジョン — 異国への憧憬

幕末の日本の開国を機に、日欧間での人や文化の交流は急速に進みました。ペリー艦隊随行画家ハイネや、その後来日した画家ワーグマンらは、ものめずらしい日本の風物を記録し、西洋に伝えました。一方、高橋由一など日本の画家たちは、彼らから西洋画法を直接学ぶ機会を得ます。

明治期に入ると、岩倉使節団の欧米訪問やフランスのギメ使節団の東洋訪問が実現し、百武兼行やフェリックス・レガメといった画家も同行しました。帰仏後、ギメやレガメはジャポニズムの醸成に大きく寄与し、19世紀後半の西洋ではジャポニズムが広く流行します。ちょうどこの頃、日本人画家たちも西洋の絵画技法を学びに次々と渡欧しました。ここでは、幕末から明治に生まれた画家たちが、異国との出会いを受けて生み出した作品をご紹介します。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
ウィルヘルム・ハイネ	『ペルリ日本遠征記』挿絵 下田浴場図	1856(安政3)	石版・紙	明治版画コレクション
チャールズ・ワグマン	物売り		水彩・紙	
チャールズ・ワグマン	座る日本女性		水彩・紙	
サー・アルフレッド・イースト	村の茶店、箱根	c.1889	水彩・紙	
ジョン・ヴァーレー・ジュニア	東京、麻布	1891	油彩・板	
アルフレッド・ウィリアム・パーソンズ	鎌倉の茶店		グワッシュ・紙	
モーティマー・メンベス	新作芝居	1887.c	エッチング、ドライポイント・紙	ローダーコレクション
五姓田 義松	婦人像	1871(明治4)頃	油彩・キャンバス	
五姓田 義松	園田御令嬢肖像	1902(明治35)	コンテ・紙	
高橋 由一	風景(鳥海山)	1880年代	油彩・キャンバス	
エドアルド・キヨソネ	岩倉具視公肖像	1889(明治22)	銅版・紙	明治版画コレクション
中川 耕山	『米欧回覧実記』挿絵 [第3巻]「巴黎 「チュロリー」宮/楼門/同宮苑ヨリ凱旋門ヲ望ム景」	1878(明治11)	銅版(エッチング、一部アクアチント併用)・紙/ポートフォリオ	
百武 兼行	風車のある風景	1877(明治10)	油彩・キャンバス	
フェリックス・レガメ	京都での当社の画家(『ハーバース・ウイークリー』 1877年5月5日付挿絵)	1877	木口木版・紙	丹尾安典コレクション寄贈
ジェームズ・アボット・マクニール・ホイッスラー	ピリングズゲイト	1859	エッチング、ドライポイント・紙	ローダーコレクション
山本 芳翠	『蜻蛉集』(ユディット・ゴーティエ著)	1884(明治17)	石版・紙/本	
山本 芳翠	園田銚像	1885(明治18)	油彩・キャンバス	
黒田 清輝	東久世伯爵肖像エスキース	1894(明治27)	油彩・キャンバス	
三宅 克己	ブルージュ	1910(明治43)	水彩・紙	
三宅 克己	セーヌ河畔サンジェルマンを望む		水彩・紙	
石井 柏亭	ピサ	1911(明治44)	水彩・紙	
小川 千麿	サン・ドニ風景	1913(大正2)	水彩・紙	
南 薫造	日没		水彩・紙	
太田 喜二郎	サン・ピエール寺院	1910-11(明治43-44)	油彩・キャンバス	
栗原 忠二	ヴァンス風景		油彩・キャンバス	
栗原 忠二	遠くに橋に見える風景、ストランド＝オン＝グリーン		油彩・ボード	
吉田 ふじを	レニヤ山		水彩・紙	(有)ヒノギャラリー寄贈
小寺 健吉	セーヌ河畔	1922(大正11)	水彩・紙	
小寺 健吉	アンシイ湖畔	1922(大正11)	水彩・紙	
川島 理一郎	コルシカ島サゴーン風景	1921(大正10)	油彩・キャンバス	
間部 時雄	カーニュにて	1923(大正12)	油彩・スケッチボード	
長谷川 潔	シャトー・アルヌーの寺院	1932(昭和7)	メゾチント・紙	

展示室3 明治石版画と町田信次郎

日本で本格的な石版画制作が始まったのは明治初期のことです。明治10年代になると、石版画は徐々に普及し、明治20年代前半には伝統的な浮世絵版画にも劣らぬ絶大な人気を誇りました。

明治時代に隆盛を極めた石版画の世界で、石に描画する石版画工として活躍した人物が町田信次郎(1871-1955)です。黎明期の日本洋画を代表する本多錦吉郎の彰技堂に入門して洋画や石版の技術を学び、その後は石版印刷の道へと進みます。1914(大正3)年には、信次郎から「隆要」と名を改め、東京銀座の三間印刷所で画工として多くの石版ポスターを手がけ、時代を彩りました。

ここでは、近年ご寄贈いただいた明治期の石版画と町田信次郎作品をご紹介します。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
亀井 至一	(名古屋城に戻された金の鯨)	c.1879(明治12頃)	石版、手彩色・紙	丹尾安典コレクション寄贈
亀井 至一	東京下谷芸妓小幾	1883(明治16)	石版、手彩色・紙	長谷川宏コレクション寄贈
村井 巖之助	婦人像	1874(明治7)	水彩、鉛筆・紙	加藤静子氏寄贈
村井 巖之助	少女	1874(明治7)	水彩、鉛筆・紙	加藤静子氏寄贈
亀井 至一	亀井家伝来資料 スケッチブックより村井巖之助肖像		水彩、鉛筆・紙	佐藤忠雄、英雄、文雄、信雄氏寄贈
村井 巖之助	汐干狩	1892(明治25)	石版・紙	長谷川宏コレクション寄贈
村井 巖之助	(自由新聞附録)	1891(明治24)	石版・紙	長谷川宏コレクション寄贈
浅井 忠	静御前鶴ヶ岡祠前二演舞ノ図	1890(明治23)	石版・紙	長谷川宏コレクション寄贈

作者名	作品名	制作年	技法・材質
岡村 政子	牛若丸	1889(明治22)	石版・手彩色・紙
亀井 竹二郎	石版『懐古東海道五十三驛真景』油彩原画より興津驛 清見寺三保松原遠望		油彩・紙
亀井 竹二郎	『懐古東海道五十三驛真景』より興津驛 清見寺三保松原遠望	1892(明治25)	多色石版・紙
亀井 竹二郎	『懐古東海道五十三驛真景』より興津驛 清見寺三保松原遠望	c.1892(明治25頃)	多色石版・紙
亀井 竹二郎	『懐古東海道五十三驛真景』(徳永柳舟・町田信次郎画作、大山印刷所発行)より 『懐古東海道五十三驛真景』広告	1891~92(明治24~25)	石版・紙/ポートフォリオ
亀井 竹二郎	大和国龍田川景	1876~1878(明治9~11)	油彩・ボード
亀井 竹二郎	大和国春日ノ神社ノ若宮ノ夜景	1875(明治8)	油彩・キャンバス
町田 信次郎	日本風景 耶馬溪青洞門之真景	1906(明治39)	多色石版・紙
町田 信次郎	大元帥陛下御尊影	1908(明治41)	石版・紙
町田 信次郎	両陛下下御殿下御尊影	1900(明治33)	石版・紙
町田 信次郎	当世風俗花と美人 情緒纏綿	1909(明治42)	二色石版・紙
町田 信次郎	当世風俗花と美人 薔薇の花	1908(明治41)	二色石版・紙
町田 信次郎	今様風俗 其一(歌留多遊び)	1900(明治33)	石版・紙
町田 信次郎	美人園 其一 雛妓の歌舞	1896(明治29)	石版・紙
波々伯部 繁	芸妓競	1893(明治26)	石版・紙
町田 信次郎	裸婦	c.1889(明治22頃)	鉛筆・紙
町田 隆要(信次郎)	「松坂屋いとう呉服店ポスター」下図	c.1922(大正11頃)	水彩、鉛筆・紙
町田 隆要(信次郎)	「ユニオンビール ポスター」下絵	c.1921(大正10頃)	水彩、鉛筆・紙
町田 隆要(信次郎)	「東亜煙会社ポスター」下絵	c.1920(大正9頃)	水彩、鉛筆・紙
町田 隆要(信次郎)	「東亜煙会社ポスター」下絵	c.1920(大正9頃)	水彩、鉛筆・紙
町田 隆要(信次郎)	「台湾製糖株式会社ポスター」下図	c.1921(大正10頃)	水彩、鉛筆・紙
町田 信次郎	「ダイヤモンド印サイダー オレンジ ポスター」下絵	c.1903-11(明治36-44頃)	水彩、鉛筆・紙

展示室4-① 創作版画の時代

にしきえ

えし ほりし すりし

江戸時代に隆盛をきわめ、錦絵とも呼ばれる浮世絵版画は、絵師・彫師・摺師といった職人による分業で制作されました。明治以降、銅版や石版など多様な版種の普及により、印刷技術として発展した版画は、明治末から大正期にかけて創作性や芸術性が重視され、作家の自画・自刻・自摺をうたった創作版画運動へと繋がりました。一方で、錦絵の隆盛によって熟達した木版の技法や職人を生かしながら画家の独創性や芸術性を表現した版画制作も続き、それらを新版画と呼ぶようになりました。

今回は、大正期から昭和戦前期にかけて、自画・自刻・自摺による創作版画と、職人との協働による新版画が共存しながら生み出された豊かな版画表現をご紹介します。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
田中 恭吉	『月に吠える』(萩原朔太郎著、感情詩社、白日出版部)	1917(大正6)	木版他・紙/本
恩地 孝四郎	『一木会豆版画帖 博物譜』(恩地孝四郎編、青園荘)	1950(昭和25)	木版・紙/本
加藤 太郎	『JEU D'OBJET 1』	1945(昭和20)	木版・紙/本
加藤 太郎	『JEU D'OBJET 2』	1945(昭和20)	木版・紙/本
	『HANGA 第壹輯』(版画の家)より 表紙	1924(大正13)	木版、エッチング/ポートフォリオ
	『HANGA 第二輯』(版画の家)より 3点	1924(大正13)	木版・紙/ポートフォリオ
	『HANGA 第三輯』(版画の家)より 6点	1924(大正13)	木版・紙/ポートフォリオ
川崎 巨泉	『HANGA 第四輯』(版画の家)より 2点	1924(大正13)	木版・紙/ポートフォリオ
大内 青圃	『版芸術 創刊号』(白と黒社)	1932(昭和7)	木版・紙/本
棟方 志功	『版芸術 第十二号 棟方志功版画集』(白と黒社)	1933(昭和8)	木版・紙/本
	『版芸術 第十九号 続全国郷土玩具版画集』(白と黒社)	1933(昭和8)	木版・紙/本
棟方 志功	『白と黒 創刊号』(白と黒社)	1937(昭和12)	木版・紙/本
棟方 志功	『白と黒 第四号』(白と黒社)	1937(昭和12)	木版・紙/本
織田 一磨	『書窓版画帖十連聚其一 都会生活』(アオイ書房)	1941(昭和16)	石版・紙/本
川西 英	『書窓版画帖十連聚其二 港都情景』(アオイ書房)	1941(昭和16)	木版・紙/本

作者名	作品名	制作年	技法・材質
川上 澄生	『書窓版画帖十連聚其三 文明開化往来』(アオイ書房)	1941(昭和16)	木版・紙/本
前川 千帆	『書窓版画帖十連聚其四 新野外小品』(アオイ書房)	1942(昭和17)	木版・紙/本
関野 準一郎	『書窓版画帖十連聚其五 東京の窓』(アオイ書房)	1942(昭和17)	エッチング・紙/本
武井 武雄	『書窓版画帖十連聚其六 宇宙説』(アオイ書房)	1942(昭和17)	エッチング、ドライポイント・紙/本
逸見 享	『書窓版画帖十連聚其七 水韻譜』(アオイ書房)	1942(昭和17)	木版・紙/本
恩地 孝四郎	『書窓版画帖十連聚其八 蟲・魚・介』(アオイ書房)	1943(昭和18)	木版・紙/本
平塚 運一	『書窓版画帖十連聚其九 伊豆一周画』(アオイ書房)	1943(昭和18)	木版・紙/本
森田 恒友	『日本風景版画 第二集 会津之部』(日本風景版画会) より3点	1917(大正6)	木版・紙/ポートフォリオ
平福 百穂	『日本風景版画 第三集 東北之部』(日本風景版画会) より3点	1917(大正6)	木版・紙/ポートフォリオ
坂本 繁二郎	『日本風景版画 第六集 筑紫之部』(日本風景版画会) より4点	1918(大正7)	木版・紙/ポートフォリオ
岸田 劉生	築地風景	1912(大正元)	木版・紙
南 薫造	浦の漁灯	1913(大正2)	木版・紙
谷中 安規	鍵(詩画集の8)	1933(昭和8)	木版・紙
恩地 孝四郎	Lyrique No.2 楽曲によせる抒情 ラヴェル “道化師の朝歌”	1933(昭和8)	木版・紙
水船 六洲	裸婦		木版・紙
有島 生馬	ハノヴィン祭(ハロウィン)	1936(昭和11)	エッチング・紙
安井 曾太郎	鏡	1938(昭和13)	エッチング・紙
安井 曾太郎	少女と大このはづく	1939(昭和14)	リトグラフ・紙
安井 曾太郎	『安井曾太郎版画集』(石原求龍堂) より魚とさざえ	1933(昭和8)	木版・紙/ポートフォリオ
安井 曾太郎	『安井曾太郎版画集』(石原求龍堂) より果物	1932(昭和7)	木版・紙/ポートフォリオ
安井 曾太郎	『安井曾太郎版画集』(石原求龍堂) より椅子に凭れる女	1932(昭和7)	木版・紙/ポートフォリオ
安井 曾太郎	『安井曾太郎版画集』(石原求龍堂) より薔薇	1932(昭和7)	木版・紙/ポートフォリオ
吉田 博	せと奈いかい高浜港	1928(昭和3)	木版・紙
吉田 博	神の島	1930(昭和5)	木版・紙

展示室4-② 金属器の表情

この展示では、銀、鉄、銅、真鍮といった多様な種類の金属器を紹介します。金属は種類毎に外見や性質に違いがあるのはもちろんですが、同じ金属であってもデザインや加工技術、組み合わせる材質によって全く異なる姿を見せます。

イギリス人デザイナー、クリストファー・ドレッサーは陶磁器やガラスの製品も手がけましたが、金属器においては産業革命による大幅な技術革新を取り入れ、洗練された造形を数多く生み出しました。郡山ゆかりの作家からは、熱で柔らかくなるガラスの性質と鍛鉄を組み合わせた佐藤潤四郎、銀の展延性を生かした遠藤兆映の作品を展示します。作家によって引き出された多彩な表情をお楽しみください。

作者名	シリーズ名	作品名	制作年	技法・材質
クリストファー・ドレッサー	『装飾デザインの原理』		1874	本
	『ストゥーディオ』 第15巻		1898	本
クリストファー・ドレッサー	トースト・ラック(青海波)		1879-1882頃	金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	トースト・ラック(ポイントアーチ型)		1879	金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	レター・ラック&ブックエンド		1885	金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	レター・ラック(円形、可動式)		1881	金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	日本風把手付き薬味入れ			ガラス、金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	六角型薬味入れセット			ガラス、金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	クラレットジャグ(ぶどう酒用容器)			ガラス、金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	クラレットジャグ、黒檀把手(ぶどう酒用容器)			ガラス、金属、電気メッキ、黒檀把手
クリストファー・ドレッサー	ミルク入れ		1880	金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	銀製ティー・セット		1885	銀、象牙、金メッキ
クリストファー・ドレッサー	シュガー・バスケット(穴あきふるい付き)		1884	金属、銀メッキ
クリストファー・ドレッサー	柳編み把手付きダブル・バスケット		1881	金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	スプーン・ウォーマー			金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	ダブル・バスケット(楕円形)		1880	金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	スプーン・ウォーマー			金属、電気メッキ、黒檀把手
クリストファー・ドレッサー	蓋付きバスケット、黒檀把手			金属、銀メッキ、黒檀把手
クリストファー・ドレッサー	緑釉サラダボウル(サーバー付き)		c.1879~82	陶器、金属、電気メッキ

クリストファー・ドレッサー	緑釉サラダボウル（サーバー付き）	c.1879～82	陶器、金属、電気メッキ	
クリストファー・ドレッサー	ナイフとフォークのセット		金属、電気メッキ	
クリストファー・ドレッサー	草花象嵌模様足付皿		銀、銅、真鍮	
クリストファー・ドレッサー	孔雀象嵌模様円形皿		銀、銅、真鍮	
クリストファー・ドレッサー	真鍮把手付きケトル	1885	銅、真鍮	
クリストファー・ドレッサー	足つきケトル		銅、木製把手	
クリストファー・ドレッサー	真鍮製燭台（一対）		真鍮	
クリストファー・ドレッサー	ファイヤードッグ（暖炉の薪台）		真鍮	
佐藤 潤四郎	鍛鉄吹込花器（グリーン）	1986(昭和61)	ガラス、鉄/鍛鉄吹込	
佐藤 潤四郎	鍛鉄吹込花器		ガラス、鉄/鍛鉄吹込・雲母封入	
佐藤 潤四郎	鍛鉄吹込花器・灯もつけて	1986(昭和61)	ガラス、鉄/鍛鉄吹込	
佐藤 潤四郎	鍛鉄吹込花器（顔）	1986(昭和61)	ガラス、鉄/鍛鉄吹込	
遠藤 兆映	花王清風	1993(平成5)	銀	遠藤兆映氏寄贈
遠藤 兆映	香器・樹海	1988(昭和63)	銀	遠藤兆映氏寄贈

ロビー展示 彫刻・他

	作者名	作品名	制作年	技法・材質	
●1階	アントニー・ゴームリー	領域 XIII	2000	ステンレス・スチール棒	
	アントニー・ゴームリー	量子雲 XXIII	2000	ステンレス・スチール棒	
	笠置 季男	躍進	1958(昭和33)	セメント	
●2階展示ロビー	北村 四海	井冰鹿の娘	1917(大正6)	大理石	
	細川 宗英	道元	1988(昭和63)	ブロンズ	
	柳原 義達	女の首	1958(昭和33)	ブロンズ	
	堀内 正和	顔	1955(昭和30)	鉄、セメント	
	佐藤 静司	遙か	1989(平成元)	ブロンズ	宇野洋子氏寄贈
●前庭	バリー・フラナガン	野兎と鐘	1988	ブロンズ	